

ロンドンタクシーによる 古林伸美さんの温泉案内

野口冬人：平成二〇年二月作成

後編



【リード】

湯原温泉へまいりますと、まずレトロチックなロンドンタクシーが走りまわっているのが目に付きます。「プチホテルゆばらリゾート」のオーナーであり、湯原観光協会会長の古林伸美さんの自慢の地球環境にやさしいエコディーゼルエンジンのくるまです。古林さんはこのロンドンタクシーで湯原温泉の観光ポイントを案内してくれます。エコツアーのコースは、20分コース、30分コース、50分コースなどがあります。この後編では下湯原温泉とたたら遺跡のある社の集落、そして湯街の新しい取り組みとこのくるまそのものをご案内しております。

温泉病院やペット専用の 露天風呂、濃縮温泉加工所など

橋を渡りまして、こちらに広がる地域は下湯原と言われている。平成元年に地質調査をしておりまして突然温泉が吹き出しまして、深さはわずか二十七メートル、毎分一〇〇〇リットル。温度は三十九度ございました。ところが湯原温泉ではこれでは温泉とは言えない。特にわずかとは言え掘ったということ事態が湯原温泉的には温泉とは違う。ということで十年間ほったらかしでございまして、田圃のなかで知る人ぞ知るといふ露天風呂でございまして、ただそれだけでございました。平成十年になりまして、はじめて開発がはじめられたんですけども、その十年の間にじつは国の施策で各市町村の振興策ということで全国津々浦々の市町村にもれなく一億円が配られるというようなことがございました。カネの使い道に困ったところでは温泉をよく掘っていました。あちらこちらに新しい温泉がボコボコとできたんですけども、さすがにそれを見ておりました旧湯原の人間も「下湯原の湯は、ほったらかしのままではいかにももったいない」ということになりまして、こちらのほうを十年後になって開発したわけですよ。もともと毎分一〇〇〇リットル、温度も三十九度という湯でございまして、いろいろな設備をつくったんですけども、こちらには旅館やホテルなどは一軒もございません。おもに福祉関係を中心としております。その中心になるのは湯原温泉病院。それと福祉センターです。あと一般に開放されておりますのは、下湯原温泉ひまわり



館という入浴施設です。こちらは湯原温泉でいままで欠けていたものを補うような形になっております。といいますのは、さきほどご覧いただいたダム直下の砂噴き湯、あの砂湯のほうで混浴ということでもご婦人のみなさんが入

りづらいという面がございました。で、この下湯原温泉のほうでは、そのあたりを改善しようということで、男女別々に、男性



の方も女性の方もスッポンポンで安心して入れるというお風呂を設えたわけです。さらに豊富な湯量がございますので、ペットの湯という、全国でも珍しいお湯もつくられております。ちなみにこちらのほうは人間のほうも有料でございます。

人間の入浴料は四二〇円。ペットはいくらだと思いませんか？一〇〇円とか二〇〇円とか言われる方が多いのですが、こちら



は人間の四倍。一五七〇円なんです。理由は簡単でございます。人間はちゃんとお尻を洗いますのでふつうの掛け流しのお風呂でいいわけなんです。ペットたちはお尻を洗いませんから……といいますがノミなどが感染ってはいけませんから、一匹ずつお湯を

抜き変えるわけです。さら湯の張り替えでございます。いちばんぜいたくなのはじつはペットたちに用意されているわけですね。こちらは一五七〇円いただいております。また、こちらのひまわり館のほうでは地域の物産品、名物やソバなどが召し上がれる、「道の駅」ならぬ温泉の駅のようになっております。こちら裏手のほうに参りましたけれども、こちらには温泉の廃熱を利用した温室がございます。いまはイチゴの栽培をしております。さらにそのお隣の小さな小屋は、「湯の国温泉加工館」と書いてございますが、こちらは湯原温泉のいちばんのヒットしているおみやげ、濃縮温泉--・温泉を二十倍に濃縮して入浴剤にご利用いただくものなんですけれども、これを製造してい

るところでございます。また五十倍に濃縮した「うるおい肌水」などが人気の商品となっております。それを真空法という減圧してつくるものですね。

こちらは福祉センター。こちらではショートステイやデイサービスなどで温泉を使っていたいております。入浴サービスの際には温泉をお持ちになっただけで行なうという施設となっております。



左側には湯原温泉にいまや必要不可欠な観光コンテンツというたいへん失礼な言い方なんですけれども、湯原温泉病院がございまして。この温泉病院、「観光で」と言うとみなさんビックリされるんですけれども、この病院がありますので御年配の方も安心してこちらにおいでいただけるということもあります。また、全国で有名になりましたのが、人間ドック付きの宿泊プラン、「湯けむりドック」と言ひまして、わたしどものホテル



や旅館に泊まっただけ、途中で人間ドックを受けていただく。そして健康にご利用いただき、場合によってはご逗留いただくというプランでございます。こちらの温泉病院を中心に……。ちなみに人間ドックを受けてホテルや旅館に泊まっただけと、おひとり約三万円。ふつ

うみなさんがたがご自宅のほうで人間ドックを受けられましてもそれぐらいは要ると思うんですけれども、旅館やホテルのご馳走をお召し上がりいただき、温泉に入ってゆっくりしていただく。さらに人間ドックが受けられる。どちらがオマケかはわかりませんが、それで三万円ですからいかがでしょうか。けっこうお手軽だと思いませんか？

そちらでメタボリックとか診断されましたら、どうぞこちらの温泉でご逗留されてはいかがででしょうか。この温泉病院には



そういった治療のほうでもご利用いただける温泉プール、そしてリハビリなどにご利用いただく場合には作業療法士の先生がたもいらっしやいまして、最新の設備で受けていただけます。これはもうたとえ減量などでも使っていただけますからね、お嬢さんが

たもよかったらダイエットでご利用されたらとお勧めしています……。ただ、こちらに入院されてというのはなかなかむずかしいと思います。地域医療の中核をなす病院でございます。ベッド数は一〇〇ほどはあるんですけれども、たいていの場合はいつも満室でございませう。



でございます。ですので、お手軽にわたしどもホテルや旅館にお泊まりいただいて、そのさいには「プチ湯治」なり「湯治プラン」といったものを御用意しておりますので、格安でお泊まりいただけます。日中はわたしどもがこの病院に送迎させていただきます。こちらで四時間ほどリハビリなりプールなりをご利用いただいてからまたホテルや旅館にお帰りいただく。旅館ではお酒やタバコも存分にやりながらという感じで楽しんでいただくプランをご用意しております。

この下湯原温泉の一角を抜けてまいりますと、湖がみえてまいります。これはさきほどから流れておりました旭川の一部なんですが、こちらは調整ダムがございましてこのような湖となっております。ここは一日に数度、発電の関係で水量を調

節するために満ち干があるんですよ。そのため水鳥にとってはたいへんいいエサ場になります。現在もご覧いただいたとおりにかもがいっぱい泳いでおります。それから干潟ではシラサギやアオサギ、朝晩の限られたポイントになりますけれどもカワセミ、そしてヤマセミもこちらで観察していただくことが可能です。野鳥ファンの隠れた名所になっているのがこちらです。

山里には格式のある古社が点在

旧国道のほうを少し入りまして、山ぞいのほうに入っております。かものんびり泳いでいますね。これは春先には白鳥もときどき寄るんですよ。第二ダムのちょうど上に湯原の名山でございます「櫃ガ仙」が見えております。あそこには自然林、天然の森と呼んでいる自然林がございまして、野生動物の宝庫になっております。



社の集落に入っております。ここは文字どおり、神社がたくさんあるんですが、格式のあるところが昔からございました。岡山県を大きく三つに分けますと、備前、備中、美作という古くは言い方をしております。その美作、岡山の県北を占める広い面積、およそ半分

ぐらいにあたるんじゃないですかね、そのなかに十一の神社が建造されております。そのうち八つがすべてこの地域にあったといえ、みなさん吃驚されるかと思えます。これは、時の権力者、和気清麻呂の支配地でございまして、たたら製鉄に関わる、いまでいう行政機関であったわけですね。いまでこそ神社というと初もうでやらお祭りやらをしてもなかなかご縁がないと思うのですけれども、昔はある意味で行政そのものでございました。ここで生産された玉鋼を都に送り出す交通機関の元とか、そこで働く人足たち、または牛や馬、そこで消費される米など食料の管理、そういったものに必要な行政の役割を果

たしたのが神社であったといわれています。如何に「たたら場の拠点」として重要視されていたかというのが、八つの神社でわかるかと思えます。いまはのどかな山里でございまして、春には桜、秋には稲作の風景などの景色が広がる場所でございます。昔はここで、それこそ『もののけ姫』さながらの様相が繰り広げられていたのでございます。右のほうにはいまはお洞になって残っております。神社の一角がですね。左にも神社の跡がご覧いただけるかと思えます。このあたりはまだ自然があるからいいんですけれども、山のほうに目をやっただきますと、圧倒的に多いのが杉や檜なんですねえ。この杉や檜、戦後に植えられて産業のために貢献してきたと思うのですが、われわれ温泉にとってはある意味ありがたくないんです。温泉と山の森とがどういう関係かといえますと、湯原の温泉はさきほどからご案内しておりますとおり自然噴出泉でございます。空から降った雨が長い年月をかけて浸透し、マグマに温められて噴き出した温泉です。これが山がそれこそ枯れておりますと保水力がございませぬ。ざざっと川に流れてしまいますと温泉になる間がないわけです。杉や檜は自然林に比べると保水力は二十パーセントしかないそうです。ということは温泉を未来永劫ずっと守るためには山が杉や檜ばかりでは具合が悪いぞと、さらに言いますと、杉や檜はなかなか動物たちを養う力もございませぬ。このあたりには、前方をみていただきますとイノシシよけのブリキの柵がしてありますとおり、イノシシやクマ、タヌキやキツネもたくさん棲んでおりまして、日本と同じ島国、このクルマのふるさとでもあるイギリスではクマは九〇〇年前に、イノシシは四〇〇年前に絶滅したそうです。幸いなことに日本には、わたしどもの地域ではイノシシもおりますし、もっと貴重な生物といわれるオオサンショウウオも棲息しております。子どもたちへ、未来へそういったものを残すためには、住むわれわれがそういったものに工夫をした生活を営まなければならないということでございまして、温泉街に暮らすわれわれも山に樹を植えたりということをしているわけでございます。



つぎのカーブを抜けますと鎮守の森がみえてまいります。最終地点にもなります「さわら神社」に間もなく到着いたします。このあたりになりますと天ぷら油のクルマもちよっとキツイですね。大きく息をしながらなんとか登っております。こちらが佐波良神社でございます。「さわらの大杉」

という千年杉があります。われわれの営みを、一〇〇〇年の昔から見守ってきた古木です。人間が十人でやっとひと抱えという大きな杉です。そしてその横にはカシやシイが植わっております。ここがたたら遺跡でもございまして、神社の裏手のほう



にはカンナナガシ、たたら製鉄のいちばん最初の砂鉄を取る作業をした遺跡が残っております。「八畳岩」というのはもともとあった岩などを掘り下げたところですね。いまご覧いただきます。こちらのほうでちょっと降りていただいて体験なさってください。

如何でございましたか?なかなか荘厳な感じのする場所でございます。みなさんここは喜んでいただけるんですよ。木の实がいっぱい落ちていましたでしょう。トチの実やなにかの殻がいっぱいあったと思いますが、イノシシやタヌキさんたちがエサにしているんですよ。こういった森がないといけませんね。

天ぷら油で動かす ロンドンタクシーのご案内



ひととおりご案内しましたので、みなさんご興味のある方もいらっしゃるでしょうから、ここから先はこのクルマに関するご案内をしながら、湯原温泉のスタート地点へ戻ります。湯原温泉で天ぷら油を燃料にする事業、いまでこそ燃料代が高くなりましたので

みなさんそちらのほうで注目していただいておりますけれども、もともとの発想はあくまでも自然保護でございます。環境を守るためにということではじめたわけではなく、けっして燃料代を安くするためということではなかったのです。で、これは天ぷら油をそのまま燃料にしているわけでもなんでもないので、けれども、そちらは後にしまして、まずクルマのほうをご説明しましょう。これは英国製のロンドンタクシーと通常呼ばれるもので、正式には「ビッグベン」というクルマになります。実際にロンドンなどではタクシーとしていっぱいみかけるクルマでございます。二、三年前までまったく同じクルマが製造されておりました。いまでは新型に変わっております。なぜこの一九九〇年型のこのクルマを利用しているかといいますと、この年式のクルマは、もともと日本製のディーゼルでございますので天ぷら油を使うには都合がよかったわけです。



しかもこの愛嬌のあるデザインということで、このクルマを温

泉街のEDF事業のマスコットにいたしました。エンジンは二六六〇cc、約二七〇〇ccですね。馬力数は八十五馬力でございます。後席は対座で五名、前席二名でして詰め込めば七人乗っていただけます。

天ぷら油三分クッキング



さて燃料なんですけれども、天ぷら油をそのまま使用している訳ではございません。これをメチルエステルというものに加工して利用しているんですけれども、おずかしいことではないんです。天ぷら油をサラサラとドロドロとにわけけるわけで、それをちょ

っとした魔法を使ってやるだけなんです。これを一分クッキングでご案内します。ご家庭でもできます。まず天ぷら油八リットリ。薬局でアルコールを二リットル。これは酒屋さんではなくて必ず薬局でお求めください。それから苛性ソーダを三十グラムご準備してください。最初にアルコールと苛性ソーダをよく混ぜます。それからつぎに天ぷら油の温度を八十度ぐらいまで上げます。けっして煙がでるような熱くはしないでください。ちょっと手をつけて「熱い!」っていうぐらいですね。それからさきほど混ぜたアルコールを天ぷら油に混ぜ込んでいただきます。これは木の棒か箸を使いよ〜くかき混ぜます。それを八時間ほど放置していただきますと、そうですねえ、五パーセントぐらいのドロドロの油と、上のほうにサラサラの油とに分離いたします。このサラサラの部分がいっしょは燃料になるわけですが、実際には天ぷらのカスとカススが混ざっておりますので、そのあとに水で洗っていただくという操作が必要です。二リットルのペットボトル約十本に分けて入れていただいて、そのうえにお湯を注ぎ、よく振ります。するとなかの天ぷら油の汚れが水のほうに吸着しますので、それを二度、三度と繰り返しますと、そうですね、ウーロン茶のような色合いになってきて完成します。これをディーゼルで走るクルマ、あまり新型だと困るんですけれども、

たいていのクルマでそのままご利用いただけます。

もし社会情勢が変わって、石油の供給が止まってしまい湯原温泉まで来る脚がないという場合には、ぜひこの方法で燃料をつくっていただき、ディーゼルのクルマをどこかで調達していただきますと、石器時代に戻ったところからなんとか湯原までは辿り着けるということで、湯原温泉までお越しいただければ、掘らなくてもいい、沸かさなくてもいい温泉で、おもてなしができますとともに街の灯も灯っております。とりあえずしのいでいただけるといふ。日本の最後の避難場所は湯原温泉にあるのではなからうかというちょっとした仮説でございますけれどもいかがでございましたでしょうか。

再び湯街

お話ししております間に湯街に帰って参りました。信号を左に折れましたら川の中に目をやって欲しいのですが…。川の中に湯原温泉のコンテンツがあるんですがお気づきになられましたか?。「独楽」と「はんざき」のモニュメントでございます。

最後に湯街を迂回しましてホテルに着きたいと思います。この辺りに観光協会や旅館組合の事務所がございますが…。この角でちょっと車を停めますから右側の窓を少し開けてみて下さい。河鹿蛙の鳴き声が聞こえますよ。聞こえましたか?では



発車します。この角を曲がりますと右に流れる川がありますが田羽根川という旭川の支流になります。この川を地元では「カジカ通りホタル川」と呼んでいます。六月頃は、今聞いていただいたカジカの鳴き声がこの辺りで一番良く聞こえます。さらに元々ホタルも良く飛んでいる

のですが今年は、例年以上に沢山飛んでくれると期待しているんです。…というのは、この天ぷら油の燃料化事業も足かけ三年になりますので、そろそろ川も綺麗に成ったろうという

事で昨年の秋にホタルの餌になる川二ナを沢山、放したんです。文字通りカジカ鳴きホタル飛ぶ湯街にきつと成る筈なんです。さてそろそろエコツアーも終了です。お付き合いいただきありがとうございました。

